

みんながで山を考えよう

開催日：2012年6月23日・24日

開催場所：日本大学文理学部

23日(土)：図書館棟3階 オーバルホール (定員160名)

24日(日)：百周年記念館2階 国際会議場 (定員300名)

(入場無料、予約申込み不用、先着順)

23日(土)：オーバルホール

開会セレモニー：9:30～10:10

歓迎の挨拶：加藤 直人 (日本大学文理学部長)

挨拶：田部井淳子 (実行委員長・元国際山岳年日本委員会委員長)

コンラッド・オスターヴァルダー (国際連合大学学長)

経過説明：江本 嘉伸 (元国際山岳年日本委員会事務局長)

▲ 第1セッション (10:10-12:10)

変化する社会と山岳住民の適応

司会：水嶋一雄 (日大)

10:10-10:55 基調講演 ヘルマン・クロイツマン (ドイツ、ベルリン自由大学)：
ヒマラヤ・ヒンズークシュ・パミール・カラコルムにおける環境変化への適応

10:55-11:10 窪合康浩・水嶋一雄 (日大)：パミール・カラコラム地域に居住する
少数民族「ワヒ」の生活実態とその地域的差異

11:10-11:25 白坂 善 (帝京大)：中国南部、雲南省西双版纳における焼畑の変容
— 焼畑からゴム栽培へ —

11:25-11:40 渡辺和之 (立命館大)：ネパール・ヒマラヤにおける山地社会の変化と羊飼いの現在

11:40-12:10 討論

12:10-13:30 昼食

▲ 第2セッション (13:30-15:30)

ヒマラヤの氷河湖決壊洪水の脅威

司会：渡辺謙二 (北大)

13:30-14:15 岩田修二 (東京都立大学名誉教授)：
ヒマラヤの氷河湖拡大への日本の取り組み—ブータン・プロジェクト

14:15-14:30 小森次郎 (平成帝京大学・JICA ブータン)：日本・ブータンの協力の歴史
— 野菜から GLOF まで —

14:30-14:45 檜垣大助 (弘前大)：ネパール・ブータンヒマラヤの自然地理的地域区分に
対応した水・土砂災害リスクの軽減

14:45-15:00 高谷哲也 (日大)：カラコルムハイウェイを遮断した大規模崩壊とせき止め湖

15:00-15:30 討論：災害への取り組みと山岳社会の持続性

15:30-16:00 山岳写真パネル展：ヒマラヤ—変わり行く景観 (パネル展は2日間実施)
ICIMOD・HAT-J 提供 ©野田憲一郎 (HAT-J)

24日(日)：国際会議場

▲ 第3セッション (9:30-11:30)

災害と山の生活—東日本大震災を中心に—

司会：江本嘉伸 (元国際山岳年日本委員会事務局長)

9:30-10:15 基調講演 田口洋美 (東北芸術工科大)：震災後の東北のマグマと山の利用

10:15-10:30 和泉 功 (福島登高会)：山の放射能と登山

10:30-10:45 宮地忠幸 (国士館大)：東京電力福島第一原子力発電所事故に揺れる
阿武隈高地の農村

10:45-11:00 飯田 肇 (立山カルデラ砂防博物館)：山の自然災害リスク—豪雨による災害

11:00-11:30 討論

11:30-13:00 昼食

▲ 第4セッション (13:00-15:00)

山と人と安全

司会：磯野剛太 (日本山岳ガイド協会)

13:00-13:45 基調講演 村越 真 (静岡大)：山岳避難データの詳細分析から見えてくるもの

13:45-14:30 基調講演 山本正憲 (鹿屋体育大)：中高年登山者の体力の弱点とその解決策

14:30-15:00 討論

▲ 第5セッション (15:00-17:00)

山の自然保護—問題点とこれから

司会：慶甲哲也 (北大)

一人10分で話題提供し、その後討論

○泉山茂之 (信州大)：里山のクマなど野生動物と人との関係

T. ジョーンズ (明治大)：自然公園における外国人利用者の現状と課題

佐野 充 (富士学会・日本大)：世界遺産登録をめざす富士山の観光登山と環境整備

椎名宏子 (東京鶴山岳連盟・NPO尾瀬自然保護ネットワーク)：尾瀬国立公園

穂刈康治 (楯ヶ岳観光株式会社)：登山道の維持管理とトイレの改善のいま

慶甲哲也 (北大)：自然公園における施設整備のあり方

「山岳性自然公園における施設整備と管理」

まとめ (17:00-17:40)

17:00-17:30 渡辺謙二 (北大)：まとめ—将来に向けて

成川隆綱 (山の日制定協賛会)：山の日アピール

17:30-17:40 吉野正敏 (筑波大学名誉教授)：実行委員長閉会あいさつ

レセプション

18:00から

カフェテリア チェリー (会費制)

